

小山作之助をもっと知ろう

ここでは、作之助にゆかりのあるスポットを紹介し、実際に訪れて、もっと作之助を知ってください。

ゆかりの地

小山作之助記念資料室

資料室には、作之助の生涯と功績をまとめたパネルが展示されているほか、作之助が編さんした唱歌集など貴重な資料を展示しています。

- ところ** 大潟コミュニティプラザ2階
(上越市大潟区土底浜1081-1)
- 開館日** 年末年始(12/29~1/3)を除く毎日
- 時間** 午前8時30分~午後10時
- 入館料** 無料
- 問合せ** まちづくり大潟 (☎025-534-6810)



作之助記念庭園

大潟町中学校の校門脇には、作之助の偉業を称えた記念庭園があります。ここには、大潟町中学校の美術教員が制作した作之助の胸像や「夏は来ぬ」の歌碑があり、周囲には卵の花が植栽されています。平成28年には生徒の手で庭園の入口に卵の花の垣根が設置されました。



小山作之助年譜

- 1864年 文久3年** 1月19日 越後国潟町村(現 新潟県上越市大潟区潟町)に生まれる
- 1878年 明治11年** 潟町小学校を卒業後、2年間、高田藩士小島堅吉の塾で漢学を学ぶ
- 1880年 明治13年** **18歳** 上京し、大学予備門に入学
- 1881年 明治14年** 明治学院大学の前身である築地大学校に入学
- 1883年 明治16年** 東京音楽学校の前身である文部省音楽取調掛に入学
- 1887年 明治20年** **25歳** 音楽取調掛卒業(総代)
- 1888年 明治21年** 東京府尋常師範学校の助教諭となる
- 1890年 明治23年** 東京尋常師範学校教諭兼尋常中学校教諭となる
- 1891年 明治24年** 初めての作曲集「国民唱歌集」を発表
- 1892年 明治25年** **30歳** 東京音楽学校(現 東京芸術大学) 助教授となる
- 1897年 明治30年** 高等師範学校附属音楽学校教授となる
- 1904年 明治37年** 日本楽器製造株式会社(現 ヤマハ株式会社)の顧問に就任
- 1909年 明治42年** **47歳** 小学校唱歌教科書編さん委員となる
- 1918年 大正7年** 小学校唱歌作曲委員となる
- 1923年 大正12年** **61歳** 日本教育音楽協会初代会長に就任
- 1925年 大正14年** 月刊雑誌「音楽グラフ」社長に就任
- 1927年 昭和2年** 6月27日、病により急逝 生涯を閉じる 享年65歳

「夏は来ぬ」の作曲家

小山作之助

生誕の地

上越市

大潟区



発行：小山作之助生誕160周年記念実行委員会



令和6年は、大潟区出身の音楽教育家・作曲家で「日本音楽教育の母」といわれる小山作之助が生まれてから160周年に当たります。この度、作之助の功績を称え、その生涯等をまとめた記念リーフレットを作成しました。多くの方々から作之助の魅力を知っていただき、上越市の偉人として後世にお伝えくだされば幸いです。

作之助ってどんな人？

故郷を離れ音楽の道へ



作之助は、1864(文久3)年に潟町村に生まれました。1880(明治13)年に上京し、やがて音楽の道を志し、東京音楽学校(現 東京芸術大学)の前身である文部省音楽取調掛に進み、音楽について一生懸命学びました。

日本音楽教育の母として



1887(明治20)年に文部省音楽取調掛を卒業後、作之助は音楽教師になります。作曲活動を続ける一方で、音楽教師の育成や音楽教育の必要性も熱心に説いたことから「日本音楽教育の母」といわれるようになりました。教え子には、滝廉太郎らがいます。

モダンなセンスを取り入れた作曲家として



作之助は代表作の「夏は来ぬ」のほか「漁業の歌」など、生涯で手がけた曲は1,000曲以上といわれています。作之助の作品には、日本古来の音楽を大切にしながらも、西洋音楽の優れた要素を進んで取り入れるなど、新しい感覚と工夫で作られた曲が多くあります。

音楽関連に多忙を極める



1903(明治36)年に音楽学校を退職した後は、文部省の仕事や、日本楽器(現 ヤマハ株式会社)の顧問に就任し、日本製楽器の普及に尽力しました。また、東京高等音楽学院(現 国立音楽大学)などの設立に関与しました。多忙な日々を過ごすなか、1927(昭和2)年に原稿執筆中に突然体調を崩し、65歳でこの世を去りました。

作之助が手がけた曲は生涯で1,000曲以上といわれていますが、確実に作之助が作曲したと断言できるものは多くありません。これは、作之助が文部省による「尋常小学唱歌」の作曲委員を務めていた時に作った曲が作詞・作曲者不詳とされていること、いまだに多くの作品が発見されていないことなどが理由です。

このほかの曲はこちらから



作之助の楽曲

代表曲♪

「夏は来ぬ」

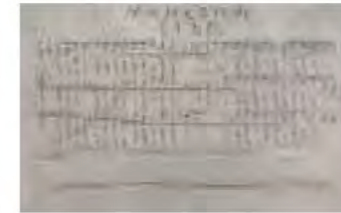
作之助が作曲した曲で最も有名な曲です。平成19年に発表された「日本の歌百選」にも選出されており、世代を問わず親しまれています。また、令和7年3月に開業10周年を迎える北陸新幹線「上越妙高駅」の発車メロディーに採用されています。



ふるさとに捧げた曲♪

「潟町青年團歌」

作之助が糸魚川市出身の相馬御風とともに、潟町青年会の依頼に応じて作った曲です。「大変良い曲なので軽々しく歌ってはならない」というメッセージが青年会に届いたといわれています。(御風の歌詞原案は「潟町青年團歌」でしたが、「潟町青年会歌」と改変して歌われました。)写真は潟町町内会所蔵の作之助直筆の楽譜です。



文部省唱歌の名曲♪

「海」

「夏は来ぬ」「漁業の歌」はよく知られていますが、「松原遠く…」の歌詞で知られる「海」は文部省編さん「尋常小学唱歌」に作者不詳として掲載されています。この曲は作之助作詞・作曲という説があり、大潟町史で触られています。



小山作之助を称える取り組み

大潟区では、各種団体が作之助を称える取り組みを行っています。

大潟町小・中学校での取り組み

生誕150周年を記念して発行した「小山作之助物語」を活用した学習や、音楽の授業などで「夏は来ぬ」を歌っています。児童・生徒は3番まで歌えるのだとか。「小山作之助物語」は図書館で読むことができます。



(文:堀川正紀、山本崇美 イラスト:小嶋秀男)



(大潟小学校学習発表会での全員合唱)

卯の花音楽祭(卯の花音楽祭実行委員会)

作之助の功績を称え、毎年7月に「卯の花音楽祭」を開催しています。令和6年は作之助生誕160周年、第20回の節目の音楽祭となり、作之助が手がけた曲を中心に地元合唱団の歌声が響きました。また、今回初めて地元小学生を中心としたジュニア合唱団を結成しました。



(第20回 卯の花音楽祭)